報告書

2023年　　月　　日

屋　号	NPO法人西条市国際交流協会	氏　名	[redacted]
題　名	西条市内在住の外国人に関する調査		
期　間	2022年7月18日～2023年6月30日		

概　要

西条市在住外国人の生活実態および外国人との共生に向けた課題についてとりまとめ、現在生じている問題点とその解決策、また将来起こりうるであろう問題点を市内在住外国人へのアンケート等を実施してまとめた。

内　容

序章
1．調査の意義と目的
現在、西条市には年度により増減はあるが、約1,500人の外国人が生活している。彼らの雇用形態、世帯の状況、国籍等を把握し、生活実態を把握することは1.社会課題の把握、2.西条市の政策立案の参考、3.適切なサービスの提供について成果が期待される。
2．調査方法
1．外国人へのアンケート調査（市内在住外国人109名（7.3%）から回答）
2．外国人の国籍、在留資格の変遷（提供：西条市）
3．監理団体等への聞き取り調査（市内および近郊の管理団体、外国人技能実習機構へ聞き取り）

第2章　在留資格と今年度の変更について
1．現在の在留資格について、表に取りまとめた。
2．西条で一番在留資格の多い、技能実習生の制度についてまとめた。
　特定技能との違いや監理団体の役割についてもまとめた。
3．今後対象分野が追加される特定技能2号について、改正内容とそれに伴う問題点についてまとめた。

第3章　西条市在住の外国人の実態について～国籍、在留資格別人口～
1．国籍別人口について、現状と推移について表とグラフで示した。
2．在留資格別人口について、現状と推移について表とグラフで示した。

第4章　アンケート調査による市内在住外国人の生活の実態について
　※市内在住外国人109名（7.3%）から回答を得た。アンケート調査は母集団の5%の回答が必要とされている。
調査項目と結果
・年齢　⇒20歳代、30歳代の方がほとんどだった。
・日本滞在期間　⇒5年未満の方がほとんどだった。
・在留資格　⇒技能実習、技術・人文知識・国際業務の方が多かった。
・普段の生活で困っていることや、不安なこと　⇒困っていることは、言葉に関することが圧倒的に多かった。
・どのような情報の提供を充実してほしいですか。⇒望まれる情報としては、母国語で相談できる窓口や日本語教室が多い。
・日常生活で困った時、どのように解決していますか。　⇒困ったときの相談相手としては、日本人の知人・友人、知人・友人、家族、職場関係者が多い。
・西条市内で日本語以外の言語による情報は十分だと思いますか。　⇒スマホの翻訳アプリも普及していますが、まだまだ、多言語対応が必要です。
・日本人とどの程度お付き合いがありますか。　⇒日本人との付き合いは、時々話すか、挨拶する程度の方がほとんどです。
・あなたは、日本人でないことにより、違った扱い（差別など）を感じたことがありますか。⇒違った扱い（差別など）については、35%の方が感じている。
・生活に必要な情報を何から得ていますか。　⇒生活の情報は身近な日本人の次がWebサイトになっています。災害でインターネットが使えなくなったときが問題です。
・日頃から災害に備えるために知っておきたい情報は何ですか。⇒これらの情報は全て知っておきたい情報です。どのようにして広めるかが課題です。
・日本での子育てや子どもの教育について、困ったことや心配なことは何ですか。　⇒未回答（子どもがいないなど）がほとんどですが、今後、特定技能2号で永住者が増えると様々な悩みが出てくると考えられます。
・けがや病気をした時どうしていますか。⇒医師の診断を受ける方が78%である。薬局の薬で対応している場合もあります

・ケガや病気をした時どうしていますか。⇒医師の診断を受ける方が多くである。家族の者で対応している場合もありますが、病気やケガの程度で判断していると考えてられる。
・病院に行くとき困ることは何ですか。⇒医師の診断を受けるときに、コミュニケーションが取れるか取れないかは重要な問題です。今後の重要な課題だと考えています。
・現在の仕事（職場）で不満に思うことは何ですか。⇒不満の多くは賃金です。その他、言葉が通じにくいのも問題になっているようです。
・■あなたが一番困っていることを具体的に書いてください。
①日本語が話せない②病気の説明ができない③喉が痛いときに、先生に診断を受けてもらったが、ちゃんとみてもらわなかった。④救急の場合、どうしたらいいのか、知らない。
・■自由意見
①日本語を勉強したい②日本の文化について勉強したい③今の所は良い④日本語の会話授業の教室を増やしてほしい⑤アルバイトをしたい。仕事の給料は低いから。

第5章　外国人へのサービスの実態と問題点について
1．日本語教室について
現状と問題点を示した。
2．相談窓口について
協会が設置している相談窓口の現状と県内の相談窓口の状況とまとめた。
3．防災情報など生活に関する情報について
西条市の外国人向け防災情報をまとめた。
4．本国から呼び寄せた子の日本語教育について
特定技能2号の拡充によって、今後、外国人の永住者が増加するものと考えられる。その場合、本国から配偶者や子を日本に呼び寄せることになるが、その対策の重要性をまとめた。
5．外国人技能実習機構からの要望について
監理団体を統括指導している外国人技能実習機構への聞き取りをまとめた。
6．監理団体・特定技能登録支援機構からの要望、提案について
市内、および周辺市の監理団体等からの要望をまとめた。

資料
・表1（就労資格）
・アンケート集計簿
・西条市日本語教室一覧
・西条市国際交流協会 「外国人相談窓口」チラシ

課題・問題点

市内外国人から要望が多いのは無料の日本語教室である。本協会は５団体に助成をしているが、小松地区に無いので、次年度開設予定である。また、外国人が気軽に参加できる交流イベントの開催を増やしたり、外国人が医療を受診時の通訳者の充実も課題となっている。

今後の活動・対策

現在、本協会の団体会員は31団体であるが、今後、外国人雇用企業に団体会員になっていただき、市内外国人労働者への情報アクセスを充実していきたいと考えている。他市では、時間3000円程度の人件費が必要な日本語教室の講師を、本協会の登録団体ではほとんどボランティアで実施していただいている事は頭の下がる思いである。新居浜市が開催しているグローバルパーティーのようなイベントを開催したいが、資金力や人的資源の壁があり、現状は不可能である。ただし、少しずつでも、市内外国人と市民が交流できる場を増やしていきたいと考えている。